

- (5) 補助事業を中止し、又は廃止する場合には、知事の承認を受けなければならない。
- (6) 補助事業が予定の期間内に完了しない場合又は事業の遂行が困難になった場合には、速やかに知事に報告してその指示を受けなければならない。
- (7) 事業完了後に消費税及び地方消費税の申告により当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）の規定により仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助対象経費に占める補助金の割合を乗じて得た金額をいう。以下「消費税等仕入れ控除税額」という。）が確定した場合は、消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書（第2号様式）により速やかに知事に報告しなければならない。
また、知事は前記による報告があった場合には、その報告内容により仕入控除税額の全部又は一部の返還を命ずるものとする。
- (8) 補助事業により取得し、又は効用の増加した財産については、事業の完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運用を図らなければならない。
- (9) 知事の承認を受けて財産を処分し、収入があった場合においては、その収入の全部又は一部を県に納付すべきことと命じることがある。
- (10) 補助事業により取得し、又は効用の増加した不動産及びその従物並びに補助事業により取得し、又は効用の増加した価格が30万円以上の機械、器具及びその他財産については、補助金等に係る予算の執行の適正化法施行令（昭和30年政令第255号。次号において、「令」という。）第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過するまで、知事の承認を受けないで、補助目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、取り壊し又は廃棄してはならない。
- (11) 補助事業に係る収入及び支出を明らかにした帳簿及び証拠書類を備え、当該収入及び支出について証拠書類を整理し、当該帳簿及び証拠書類を補助金の額の確定の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後5年間保管しておかななければならない。ただし、事業により取得し、又は効用の増加した価格が単価30万円以上の財産がある場合は、前記の期間を経過後、当該財産の財産処分が完了する日、又は令第14条第1項第2号の規定により厚生労働大臣が別に定める期間を経過する日のいずれか遅い日まで保管しておかななければならない。

第8 変更の承認の申請

補助事業者は、次について変更しようとする場合障害者（児）施設整備費補助金事業内容変更承認申請書（第3号様式）2部を知事に提出し、その承認を得なければならない。

- (1) 補助事業に要する経費の配分の変更をする場合
- (2) 補助事業の内容のうち、建物の規模又は構造（施設の機能を著しく変更しない程度の軽微な変更を除く。）、建物等の用途、入所定員又は利用定員
- (3) その他知事が必要と認める書類

第9 補助金の概算払

知事は、補助金の交付の決定をした場合において、必要があると認めるときは、予算の範囲内で概算払をすることができる。

- 2 前項の規定により、補助金の概算払を受けようとする者は、次に掲げる書類2部を知事に提出しなければならない。
 - (1) 概算払請求書（第4号様式）

- (2) 請求金額内訳書（出来高調書）（別紙3）
- (3) 出来高検査報告書（別紙4）
- (4) その他知事が必要と認める書類

第10 指示及び検査

知事は、補助金の交付の決定を受けた者に対し、必要な指示をし、又は書類、帳簿等の検査を行うことができる。

第11 状況報告等

補助事業者は、交付の対象となった整備事業に係る工事に着工したときは、工事着工報告書（第5号様式）により工事に着工した日から7日以内に知事に報告しなければならない。

- 2 補助事業者は、工事進捗状況報告書（第6号様式）により、毎年度12月末日現在の状況を翌月10日までに知事に報告しなければならない。

第12 完了実績報告

補助事業者は、補助事業が完了したときは、補助事業の完了した日から20日を経過した日（事業の廃止承認を受けたときは、当該承認通知を受理した日から20日を経過した日）又は補助金の交付のあった年度の末日のいずれか早い日までに、次に掲げる書類2部を知事に提出しなければならない。

- (1) 障害者（児）施設整備費県費補助金事業実績報告書（第7号様式）
- (2) 施設整備精算額内訳（障害者関係施設）（別紙5）
- (3) 事業実績報告書（別紙6）
- (4) 歳入歳出決算書（見込書）抄本
- (5) 契約書の写し及び検収調書（又はそれに代わるもの）の写し
- (6) 竣工検査報告書（別紙7）
- (7) その他知事が必要と認める書類

第13 補助金の確定及び交付

知事は、第12の規定による書類を受理した場合において、その内容を適当と認めるときは、補助金の額を確定し、補助事業者に通知するものとする。

- 2 前項の規定による通知を受けた補助事業者は、補助金の交付を受けようとするときは、補助金請求書（第8号様式）及び請求金額内訳書（出来高調書）（別紙8）を知事に提出しなければならない。
- 3 知事は、前項の規定に基づく請求を受けたときは、第9第1項の規定により概算払をした金額がある場合にはこれを精算し、補助金を交付するものとする。
- 4 知事は、前項の規定による精算により変換が適当と認める額が生じたときは、当該金額の補助金の返還を当該補助事業者に対し請求するものとする。

第14 交付決定の取消し等

知事は、補助金の交付を受けた者が次の各号のいずれかに該当するときは、補助金の交付の決定の全部又は一部を取り消すことができる。

- (1) 第7の規定に違反したとき。
 - (2) 第8の規定に違反したとき。
 - (3) 第10の規定による知事の指示に従わなかったとき又は検査を拒み、忌避し、若しくは妨げたとき。
 - (4) 偽りその他不正の手段により補助金の交付を受けたとき。
- 2 前項の規定により補助金の交付の決定の全部又は一部を取り消した場合にあっては、知事は、当該取消しに係る部分に関し既に交付した補助金の返還を命ずるものとする。

第15 その他

この要綱に定めるもののほか、必要な事項は知事が別に定める。

附 則

この要綱は、平成9年5月30日から施行し、平成9年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成11年4月1日から施行し、平成11年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成13年4月1日から施行し、平成13年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成15年4月1日から施行し、平成15年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成15年9月26日から施行し、平成15年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行し、平成17年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成19年3月1日から施行し、平成18年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成20年1月1日から施行し、平成19年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行し、平成20年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成20年12月1日から施行し、平成20年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成21年11月1日から施行し、平成21年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成24年12月28日から施行し、平成24年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成25年8月16日から施行し、平成25年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成27年9月18日から施行し、平成27年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成28年8月1日から施行し、平成28年度分の補助金から適用する。

附 則

この要綱は、平成30年3月1日から施行し、平成30年度分の補助金から適用する。